

1

問題のページへ

- (1)  $t = \sin \theta + \cos \theta$  より,  $t^2 = 1 + 2 \sin \theta \cos \theta$ ,  $2 \sin \theta \cos \theta = t^2 - 1$  なので,  

$$f(\theta) = t + \sqrt{2}(t^2 - 1) = \sqrt{2}t^2 + t - \sqrt{2}$$
 また,  $0 < \theta < 2\pi$  のとき,  $t = \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$  から  $-\sqrt{2} < t < \sqrt{2}$  である.
- (2)  $f(\theta) = 0$  から  $\sqrt{2}t^2 + t - \sqrt{2} = 0$ ,  $(\sqrt{2}t - 1)(t + \sqrt{2}) = 0$  より,  $t = \frac{1}{\sqrt{2}}$ ,  $-\sqrt{2}$
- (i)  $t = \frac{1}{\sqrt{2}}$  のとき,  $\sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{\sqrt{2}}$ ,  $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{2}$   
 すると,  $\theta + \frac{\pi}{4} = \frac{5}{6}\pi$ ,  $2\pi + \frac{1}{6}\pi$  より,  $\theta = \frac{7}{12}\pi$ ,  $\frac{23}{12}\pi$
- (ii)  $t = -\sqrt{2}$  のとき,  $\sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = -\sqrt{2}$ ,  $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = -1$   
 すると,  $\theta + \frac{\pi}{4} = \frac{3}{2}\pi$  より,  $\theta = \frac{5}{4}\pi$
- (i)(ii)より,  $\theta = \frac{7}{12}\pi$ ,  $\frac{5}{4}\pi$ ,  $\frac{23}{12}\pi$
- (3)  $t = \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$  ( $0 < \theta < 2\pi$ ) より,  $t = \pm\sqrt{2}$  のとき  $\theta$  は 1 個,  $-\sqrt{2} < t < \sqrt{2}$  のとき  $\theta$  は 2 個存在する.

さて,  $\sqrt{2}t^2 + t - \sqrt{2} = a$  を満たす  $t$  の個数は, 放物線  $y = \sqrt{2}t^2 + t - \sqrt{2}$  と直線  $y = a$  の共有点の個数に一致する.

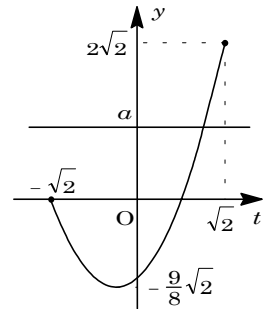
この放物線を  $y = \sqrt{2}\left(t + \frac{\sqrt{2}}{4}\right)^2 - \frac{9}{8}\sqrt{2}$  と変形すると,

$$a = -\frac{9}{8}\sqrt{2}, \quad 0 < a < 2\sqrt{2} \text{ のとき } t \text{ は } 1 \text{ 個}, \quad -\frac{9}{8}\sqrt{2} < a < 0$$

のとき  $t$  は 2 個存在する.

よって,  $f(\theta) = a$  を満たす  $\theta$  がちょうど 2 個となるのは,

$$a = -\frac{9}{8}\sqrt{2}, \quad 0 < a < 2\sqrt{2} \text{ のときである.}$$



### [ 解 説 ]

三角方程式の解の個数についての頻出問題です。グラフを書いて、論理を注意深く進めていかないと、ミスをしてしまいます。

2

問題のページへ

- (1) 条件式  $a_{n+1} = 2a_n + 2^{n+3}n - 17 \cdot 2^{n+1}$  の両辺を  $2^{n+1}$  で割ると,  $b_n = \frac{a_n}{2^n}$  より,

$$\frac{a_{n+1}}{2^{n+1}} = \frac{a_n}{2^n} + 4n - 17, \quad b_{n+1} = b_n + 4n - 17$$

ただし,  $b_1 = \frac{a_1}{2^1} = \frac{36}{2} = 18$  である。

$$\begin{aligned} \text{よって, } n \geq 2 \text{ で, } b_n &= 18 + \sum_{k=1}^{n-1} (4k - 17) = 18 + 4 \cdot \frac{1}{2}(n-1)n - 17(n-1) \\ &= 2n^2 - 19n + 35 \end{aligned}$$

$n = 1$  をあてはめると,  $b_1 = 18$  となり成立する。

したがって,  $a_n = b_n 2^n = (2n^2 - 19n + 35) 2^n$

- (2) (1)より,  $a_{n+1} = \{2(n+1)^2 - 19(n+1) + 35\} 2^{n+1} = 2(2n^2 - 15n + 18) 2^n$

$$\begin{aligned} a_{n+1} - a_n &= 2(2n^2 - 15n + 18) 2^n - (2n^2 - 19n + 35) 2^n \\ &= (2n^2 - 11n + 1) 2^n \end{aligned}$$

$a_n > a_{n+1}$  となるのは,  $2n^2 - 11n + 1 < 0$ ,  $n(2n - 11) + 1 < 0$

この不等式を満たす自然数は  $n = 1, 2, 3, 4, 5$  である。

すると,  $1 \leq n \leq 5$  のとき  $a_n > a_{n+1}$  であり,  $n \geq 6$  のとき  $a_n < a_{n+1}$  となるので,

$$a_1 > a_2 > a_3 > a_4 > a_5 > a_6 < a_7 < a_8 < \dots$$

よって,  $n = 6$  のとき,  $a_n$  は最小となる。

- (3)  $n \geq 2$  で  $S_n - S_{n-1} = a_n$  より,  $a_n > 0$  のとき  $S_{n-1} < S_n$ ,  $a_n = 0$  のとき  $S_{n-1} = S_n$ ,  $a_n < 0$  のとき  $S_{n-1} > S_n$  となる。

さて,  $a_n > 0$  とすると, (1)より  $2n^2 - 19n + 35 > 0$  となり,

$$(2n - 5)(n - 7) > 0, \quad n < \frac{5}{2}, \quad 7 < n$$

よって,  $n = 2$  のとき  $a_n > 0$ ,  $3 \leq n \leq 6$  のとき  $a_n < 0$ ,  $n = 7$  のとき  $a_n = 0$ ,  $n \geq 8$  のとき  $a_n > 0$  となるので,

$$S_1 < S_2 > S_3 > S_4 > S_5 > S_6 = S_7 < S_8 < S_9 < \dots$$

$a_1 = 36$ ,  $a_2 = 5 \times 2^2 = 20$ ,  $a_3 = -4 \times 2^3 = -32$  より,  $S_3 = 36 + 20 - 32 = 24$  となり,  $S_3 < S_1 = 36$  であるので,  $S_n$  が最小となるのは  $n = 6, 7$  のときである。

### [ 解 説 ]

誘導つきの漸化式の解法と, 数列の最大値という有名問題で構成されています。文系に類題が出題されています。

3

問題のページへ

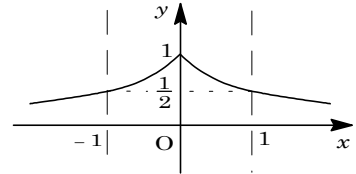
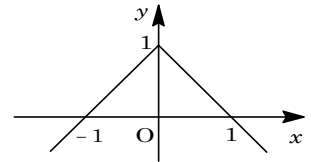
(1)  $y = 1 - |x|$  に対して、 $x \geq 0$  のとき  $y = 1 - x$ 、 $x < 0$  の

とき  $y = 1 + x$  となるので、グラフは右図のようになる。

また、 $y = \frac{1}{1 + |x|}$  に対して、 $x \geq 0$  のとき  $y = \frac{1}{1 + x}$ 、

$x < 0$  のとき  $y = \frac{1}{1 - x}$  となるので、グラフは右下図の

実線のようになる。



(2)  $(ax + b)(1 - x^2) \geq 1 - |x|$  ..... が、 $-1 \leq x \leq 1$  に

おいて成立する条件は、

(i)  $x = \pm 1$  のとき

の両辺とも 0 となり、任意の  $a, b$  で成立する。

(ii)  $-1 < x < 1$  のとき

$1 - x^2 > 0$  より、不等式 は、 $ax + b \geq \frac{1 - |x|}{1 - x^2}$  .....

さて、 $1 - x^2 = 1 - |x|^2 = (1 - |x|)(1 + |x|)$  と変形すると、不等式 は、

$$ax + b \geq \frac{1}{1 + |x|} \dots\dots\dots$$

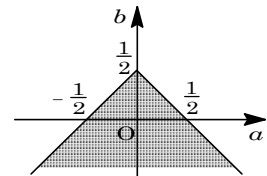
ここで、 $f(x) = ax + b$  とおくと、 $-1 < x < 1$  において、 $y = f(x)$  のグラフが

$y = \frac{1}{1 + |x|}$  の下方にあることに等しいので、 $a > 0$  のとき  $f(1) = a + b \geq \frac{1}{2}$ 、 $a = 0$

のとき  $b \geq \frac{1}{2}$ 、 $a < 0$  のとき  $f(-1) = -a + b \geq \frac{1}{2}$  となり、

$ab$  平面上に図示すると、右図の網点部となる。

(i)(ii)より、求める条件は、 $a + b \geq \frac{1}{2}$ 、 $-a + b \geq \frac{1}{2}$



(3) 求める図形の面積を  $S$  とすると、

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^1 \{1 - |x| - (ax + b)(1 - x^2)\} dx = \int_{-1}^1 \{1 - |x| + ax^3 + bx^2 - ax - b\} dx \\ &= 2 \int_0^1 (1 - |x| + bx^2 - b) dx = 2 \int_0^1 (bx^2 - x + 1 - b) dx \\ &= 2 \left( \frac{1}{3}b - \frac{1}{2} + 1 - b \right) = -\frac{4}{3}b + 1 \end{aligned}$$

[ 解 説 ]

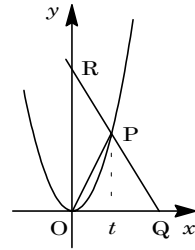
$x^2 = |x|^2$  に気付くことがポイントです。(1)で  $y = \frac{1}{1 + |x|}$  のグラフを書かせる設問が、このヒントとなっています。

4

問題のページへ

- (1)  $f(x) = e^{2x} + e^{-2x} - 2$  より,  $f(0) = e^0 + e^0 - 2 = 0$   
 また,  $f'(x) = 2e^{2x} - 2e^{-2x}$  より,  $f'(0) = 2e^0 - 2e^0 = 0$

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x^2} &= \lim_{x \rightarrow 0} \frac{(e^x - e^{-x})^2}{x^2} = \lim_{x \rightarrow 0} \left( \frac{e^x - e^{-x}}{x} \right)^2 \\ &= \lim_{x \rightarrow 0} \left( \frac{e^x - 1}{x} + \frac{e^{-x} - 1}{-x} \right)^2 = (1+1)^2 = 4 \end{aligned}$$



- (2)  $P(t, f(t))$  とおくと,  $OP = \sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2}$   
 $OP = OQ$  より  $Q(\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2}, 0)$  となり, 条件から  $R(0, g(t))$  とおくと,  
 $\overline{OR} = \overline{OP} + k\overline{PQ}$  より,

$$(0, g(t)) = (t, f(t)) + k(\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2} - t, -f(t))$$

$$0 = t + k(\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2} - t) \dots \dots \dots, \quad g(t) = f(t) - kf(t) \dots \dots \dots$$

$$\text{より } k = \frac{-t}{\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2} - t} = -\frac{t(\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2} + t)}{\{f(t)\}^2} \text{ となり, 代入して,}$$

$$g(t) = f(t) + \frac{t(\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2} + t)}{f(t)} = \frac{t^2 + \{f(t)\}^2 + t\sqrt{t^2 + \{f(t)\}^2}}{f(t)}$$

$$\text{さて, } g(t) = \frac{t^2}{f(t)} + f(t) + \sqrt{\left\{\frac{t^2}{f(t)}\right\}^2 + t^2} \text{ と変形すると, (1)より } \lim_{t \rightarrow 0} \frac{t^2}{f(t)} = \frac{1}{4},$$

$f(0) = 0$  なので,

$$\lim_{t \rightarrow 0} g(t) = \frac{1}{4} + 0 + \sqrt{\frac{1}{16} + 0} = \frac{1}{2}$$

よって,  $P$  が  $O$  に近づくとき,  $R$  は点  $(0, \frac{1}{2})$  に近づく。

### [ 解 説 ]

一見, 難しそうに見える問題ですが, 内容は基本的な計算の積み重ねです。なお,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x - 1}{x} = 1 \text{ は重要な極限值の 1 つです。}$$